

43 本邦最初の血液学書入沢達吉纂訳

『血液病理学及図譜』について

会 田 恵

『血液病理学及図譜』（以下「本書」）は明治三十年十二月（一八九七）の出版で、当時入沢達吉博士（以下「入沢」）は三十二歳で帝国大学医科大學助教授であった。本書の序文に自ら述べている通り本邦では「血液ニ關スル書」として最初の出版であった。

入沢は明治二十三年（一八九〇）から四年間のドイツ留学から同二十七年（一八九四）帰朝後三年で本書を出版しているが、留学中の研究が本書の骨子となつていてと考えられ、この事は序文からも内容からも充分窺われるのである。序文の一部では（前文と後文を省略）

一書中、リムベック氏ノ著ヨリ抄出セルモノ最モ多シ、
間マエールリヒ、レヨキット、ビッツラツェロ其他諸氏
ノ記述ヲ對照セリ、麻拉利亞ノ一章ハ、専ラマンナベル

ヒ氏ノ書ニ據レリ、

一圖中、予ガ曾テ親シク、エールヒ氏ニ聽ク所ニヨリテ、
一二ヶ處少シク訂正ヲ加エタルモノアリ、他ハ一ニ原圖
ニ從フ、

本書の血液病理学の内容は一頁より六七頁までで、各章と主要項目は第一章血液生理（赤血球白血球血小板）第二章血液病理（赤血球ノ病理的關係白血球ノ病理的關係）第三章白血病（假性白血病）第四章麻拉利亞寄生蟲、第五章血液検査法（染色液其一エールリヒ氏三酸溶液他其十六まで、血小板検査法）となつている。これらの次に血液図譜が47図示されている。本書はほぼA4判に近い大きさである。

前述の序文に述べてあるリムベックの著とは本書に示されてはいないが、

Rudolf Ritter v. Limbeck の Grundriss der Klinisc Pathologie des Blutes 1896 と考えられる。この初版は未見であるが、二版が Jena で出版され、一九〇一年にロンドン の The New Sydenham Society から The Clinical Pathology of the Blood (以下「訳書」) の標題で英

訳出版されているのである。この訳書の扉には University of Vienna Physician to the Rudolf Stifting Hospital の教授リムベックと出ている。

この訳書の内容はB5判の大きさと三三八頁に及び、各章は Method of Investigation, The Quantity of the Blood, The Chemical and Physical Properties of Blood, the Morphology of the Blood, Clinical Investigations, となっており、例えばエルリヒの染色技術による白血球分類については四頁に述べられており、これらの基本的事項が本書に引用されている事が理解出来るのである。注目したい点は第3章の血液の化学的物物理的性質の章からの引用がみられない点である。この章が初版に記述がなくて二版から九八頁も記載という事は考え難い。

因みにリムベックはウィーンに生れ、(二八六一)ドイツの Prag 大学に学びつづいて助手を務め、血液病理学の業績で著名となったが、三十九歳(一九〇〇)で死去している。訳書の序文には血液の生理学病理学化学の世界の権威と紹介されているのである。

次に巻末の血液図譜について触れる。十一頁に標本の検鏡所見が44枚示されている。色彩は比較的単純にスケッチ風に弱拡大(三〇〇倍)強拡大(一一〇〇倍)に描かれ夫々の所見の説明がついている。標本では無染色又はエオジン・ヘマトキシリン染色の乾燥標本が最も多く、通常血液の他萎黄病、重症慢性貧血、重症貧血、炎性白血球增多症、白血球ノ增多セル重症貧血、淋巴性白血病、急性白血病、脾臓性白血病、混合性白血病、脾臓性兼骨髓性白血病、麻拉利亞寄生虫、進行性悪性貧血等の標本が出ている。

これらは序文では大部分は原図によると示されているが、原図は記載してないので不明である。

因みに本書出版の十二年後明治四十二年(一九〇九)松本繁正著『臨床的血液検査法』(一二二頁)でも図譜はなおドイツの Grawitz 等の著作よりの引用が示されている。

(会田内科医院)